



「ふるさとを愛し 志をもって 自ら新しい社会を切り拓く 子どもを育てる学校経営の推進」の具現化を目指して

第71回全国連合小学校長会研究協議会

秋田大会実行委員長 七尾 尊 志

「秀丽無比なる鳥海山よ」で始まる秋田県民歌。多くの秋田県民が誇りと愛着を感じている曲です。一番の歌詞の終わりに、「山水皆これ詩の国秋田」とありますように、秋田は風光明媚で自然豊かな土地柄です。寒さの厳しい長い冬、山々や大地は多くの雪に覆われますが、蓄えられた水源は稲穂の実りに必要な夏まで、枯れることなく大地を潤してくれます。農作物の豊かな実りは県内各地に「祭」を興し、秋田ならではの風土・文化が形成され、脈々と受け継がれてまいりました。先人たちの知恵と工夫と挑戦が、この厳しい自然環境や困難等の課題を克服し、現代に恩恵をもたらしたのです。元号が令和に代わり、次年度からは新学習指導要領の全面実施を迎える節目の年に、ここ秋田の地において、「第71回全国連合小学校長会研究協議会並びに第59回東北連合小学校長会研究協議会」が開催されますことは、誠に意義深いものがあります。

現代は、知識基盤社会の新たな進展やグローバル化の進行、世界に類を見ないスピードで進む少子高齢化により、先を見通すことが困難な時代を迎えています。また、「東北は一つ」のスローガンのもと、東日本大震災とそれに伴う原子力発電所事故をはじめとする被災各地における教訓と取組を共有し、たくましく生き抜くために必要な「生きる力」を確実に育むことが学校教育の責務と捉えています。併せて、地域・家庭との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、新しい時代に求められる資質や能力を子どもたちに育む上で、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立が急務となっています。このようなことから、秋田大会における副主題を「ふるさとを愛し 志をもって 自ら新しい社会を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」と設定し、本大会において、学校経営を推進する校長としての果たすべき役割と指導性を究明してまいりたいと考えています。

秋田大会は、第65回三重大会から掲げてきた大会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」による最後の研究大会となります。過去6大会にわたる研究成果を総括し、令和2年度、新たな大会主題で開催される京都大会への展望を明らかにする大会と位置づけ、鋭意準備を進めてまいりました。本大会では、大会1日目の分科会協議において、「可視化しながら、考えを広げ、深めよう」と思考ツールを活用し、協議が深まる分科会運営を目指します。

大会2日目には、秋田県に縁のある3名によるシンポジウムを開催します。シンポジストは、卓越した経営観で知られる（株）佐々木常夫マネージメント・リサーチ代表取締役の佐々木常夫氏、テレビのコメンテーターとしても活躍されている読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏、地元秋田の五城目町で、「内閣官房ふるさと活性化支援チーム」の一員として活躍されている丑田香澄氏の3名です。シンポジウムでは、全国連合小学校長会調査研究部長代理の平川惣一氏にコーディネーターをお願いし、「ふるさと 志 未来創造」をキーワードとして、大会主題、副主題に迫っていただきます。

今、学校現場では働き方改革が叫ばれ、教育改革の動きも加速する中で、学校経営の責任者としての校長の役割・指導性がより一層重要視されております。この研究協議会において、大いに語り合い、学び合うことを通して、明日の日本を担うたくましい子どもたちを育む教育を全国に発信していく起点となるよう、秋田大会が全国における教育の充実・発展に資する大会となることを願っています。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご指導とご助言をいただきました文部科学省、秋田県、秋田県教育委員会、秋田市、秋田市教育委員会、秋田県市町村教育委員会連合会、秋田県PTA連合会、秋田市PTA連合会をはじめ、関係諸機関、全連小役員、事務局及び関係の皆様方に、厚く感謝申し上げ、あいさついたします。

